

機密費使い、IOC贈答

馳知事発言 安倍氏「いくらでも」

石川県の馳(はせ)浩知事が17日に東京都内で講演し、2013年に開催が決定した東京五輪の招致活動で、開催都市決定の投票権を持つ国際オリンピック委員会(IIOC)の委員に、内閣官房機密費(報償費)を使って、贈答品を渡していたと発言していたことが分かりました。

東京五輪招致

馳氏は18日に記者会見をし、「私自身の事

実録もある発言。全東京五輪の招致推進本部撤回する」とのべき部長でした。馳氏は自民党で、共同理信によると、

講演で馳氏は当時の安倍首相から「必ず勝ち取れ」「金はいくらでも出す。官房機密費もある」と告げられたことを紹介したといっています。100人余りのIOC委員それぞれ

の選手時代の写真をまとめた1冊20万円のアルバム全員分を作成。馳氏は「それを持って世界中を歩き回った」とのべ、渡した委員の個人名を挙げたとい

ます。

東京五輪は2013

年9月のIOC総会で

2020年の開催が

決まりました。当時、

馳氏は自民党の衆院

議員で、「首相助幹」に

よると、総会約1カ月

前の13年8月2日に安

倍首相と会っていました。

倫理麻痺させる闇ガネ

内閣官房機密費(報償費)は、領収書が不要で内閣の「闇ガネ」と呼ばれます。一般の予算と異なり、事前に用途が決められておなければ、何に使ったかを問われることもありません。

年間の予算は、12億3021万1000円です。2012年12月に発足した第2次安倍晋三内閣からの歴代自民党内閣は毎年、この予算のきりまで使っています。

東京五輪招致のために官房機密費を使って贈答品を授受したことが事実なら、国際オ

リンピック委員会(IIOC)の倫理規定に抵触する恐れがあります。

官房機密費について歴代政権は「内政、外交を円滑かつ効果的に遂行するため」のものといひ、「國政の遂行上、不可欠なもの」と説明してきました。IOC委員へ「買収まがい」の贈答品が國政遂行に不可欠だったといふのでし

ょうか。

安倍内閣の官房機密費の取り扱い責任者は官房長官だった菅義偉前首相でした。菅氏

でいえば、19年の参院選広島

選挙区での大規模買収事件で、河井克行正法相の自宅から安倍氏や菅氏らからの資金提供の疑いを訴すメールが出てきたと報じられています。ここにも官房機密費の影がちらつき

ます。

安倍氏が「金はいくらでも出す」と述べたという馳氏の証言は驚きです。使途が問われない官房機密費は、使う側の倫理すら麻痺(まひ)させて

るこの証左です。馳氏の発言撤回で導ききれぬ許されようもありません。

(矢野昌弘)

東京五輪の開催が決まったIOC総会があった2013年9月の官房機密費の支出を記した「出納管理簿」